ただいま発掘中！

巣鴨町家跡の発掘調査

2012年11月30日

発掘調査を実施している場所は、**巣鴨遺跡**(すがもいせき)の範囲内に位置しています。巣鴨遺跡からは、旧石器時代から江戸時代までの遺構(いこう)・遺物(いぶつ)が確認され、その中で、特に**江戸時代**の「**巣鴨町**」の痕跡がよく残る遺跡なのです。巣鴨町は江戸時代に**中山道**(なかせんどう)（現地蔵通り～白山通り）に沿って発達した町です。巣鴨町は、4つにエリア分けされ、町の中央付近には**江戸六地蔵**(えどろくじぞう)の1つが鎮座する**真性寺**(しんしょうじ)が位置しています。

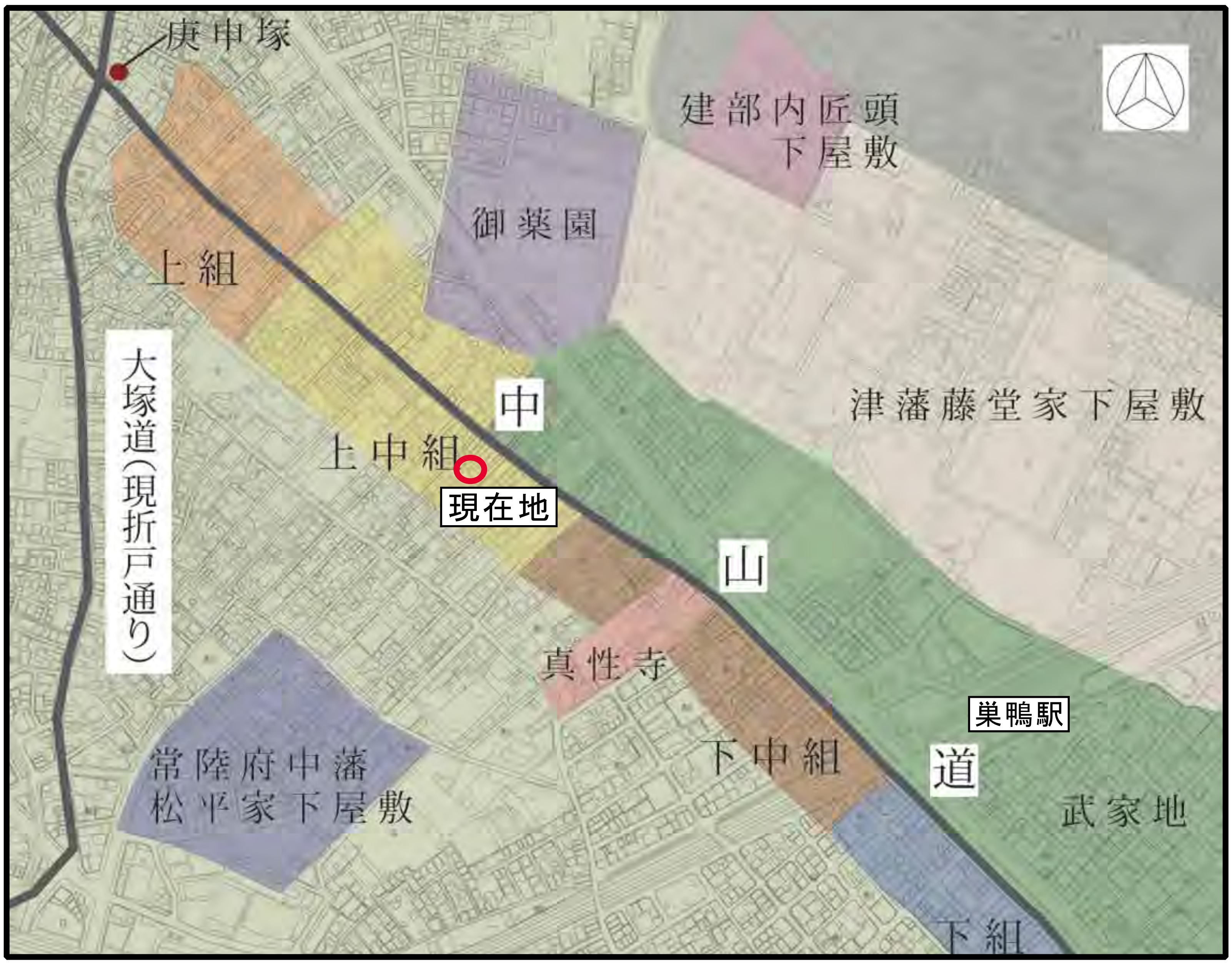
今回の発掘調査では、**元禄頃**（17世紀末～18世紀初頭）の**陶磁器・土器**が多く出土しました。巣鴨町が町奉行(まちぶぎょう)支配に組み込まれる18世紀中頃よりも古い時期に当たります。この時期の巣鴨の様子は、未だに不明な部分が多く、そのためこうした出土品や土坑は、江戸時代前半の巣鴨の歴史を紐解くヒントになりそうです。

幕末期の当地は、文献資料には「**鑑屋**(かがみや)」もしくは「**青物屋**」「**古道具屋**」と記されています。しかし、この時期の土坑から出土した遺物の中に、これらの職業と直接結び付けられるようなものは見当たらず、目立って出土しているのは**植木鉢**です。正確には数えていませんが、全体（19世紀代）の出土品の**6～7割**は植木鉢が占めているものと推定されます。「鑑屋」の西隣の奥側（現在の巣鴨第一保育園付近）は「**植木屋　紋太郎**」と想定され、大量に出土した植木鉢は植木屋が捨てたものの可能性があります。植木鉢は、陶製の蘭鉢(らんばち)や半胴甕(はんどうがめ)、黒味がかった土製のものが出土しており、花卉(かき)の違いで鉢を使い分けていたのでしょう。なお、巣鴨町には多くの植木屋が住んでいて、**造り菊**などで有名でした。このほか、たくさんの**柱の跡**や、深さ150㎝もある**大型の溝**が発見されています。

発掘調査地：わんぱく相撲広場跡地

（豊島区巣鴨3-16〔住居表示〕）

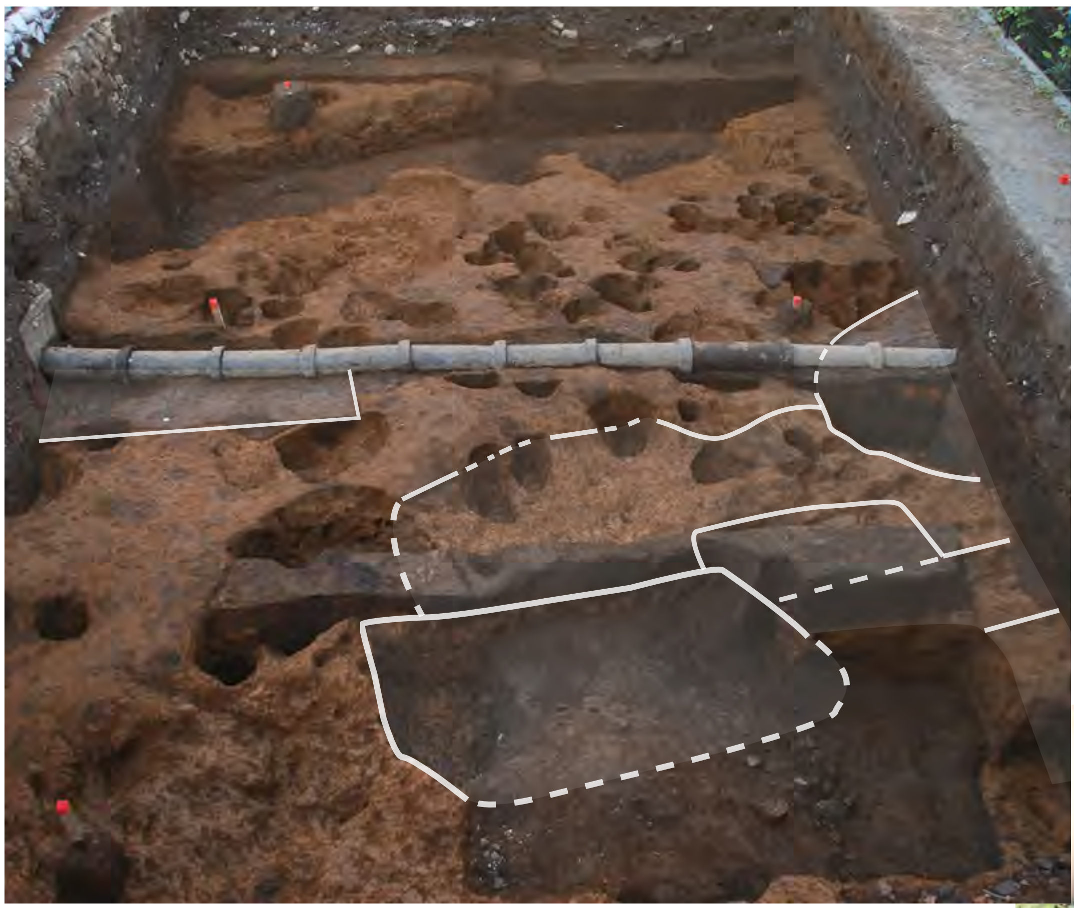
特定非営利活動法人
としま遺跡調査会



嘉永５(1852) 年の巣鴨町周辺と現在地

巣鴨町は、４つの組(上組・上中組・下中組・下組）で構成された町です。現在高岩寺が位置する辺りから巣鴨駅方面にかけては、片側が大名屋敷などの武家地となっていました。

出土した植木鉢



↑巣鴨町成立前の遺構群

白線の土坑内からは、今からおよそ 300 年前の、元禄頃(17 世紀末～18 世紀初頭）の食膳具や燈火具・瓦などの陶磁器・土器（下写真）が出土しました。

出土した江戸時代後期の陶磁器類

大型溝の調査（幕末頃）

敷地の形に対して斜めに走っています。写真は１ｍ程掘り下げた状態です。本来の深さは 150 ㎝であることが判明しています。